

## 朗読「ひとごろし」 あらすじ

越前福井藩きっての臆病者と言われている双子六兵衛が突如、上意討ちを名乗り出た。相手は藩主が可愛がっていた加納平兵衛を斬り、藩を出た剣術と槍の名人でお抱え武芸者仁藤昂軒であった。六兵衛は剣の腕は未熟である。妹のかねの止めるのも聞かず昂軒を追って旅に出た。三日目に六兵衛は昂軒に追いついた。だが、姿を見ただけで心臓がとまるほど恐怖に震えあがった。翌日、六兵衛は昂軒を追い越してしまい、昂軒に呼び止められた時、思わず「ひとごろし」と叫んで夢中で逃げ出した。ところが、この声意外な効果を生んだ。旅人や土地の人たちが六兵衛の叫びを聞き、昂軒を見るなり恐怖におののいて逃げ惑った。それを見て六兵衛は急に元気づいてきた・・・宿屋でも、飯屋でも、昂軒の行くところ、必死で六兵衛は叫び続けた。あくまで用心深く慎重で、同じ事を叫んでは素早く逃げた。そして昂軒とは一定の距離を保ったまま、追いつづけて叫んだ。昂軒はだんだん睡眠不足と空腹に追い込まれてノイローゼになっていく。旅館の女主人おようが六兵衛に味方して、一緒に追った。富山では、奉行所の与力が味方した。とうとう昂軒は、道端に座り込んで切腹すると言いだし・・・

## 朗読劇「夕鶴」 あらすじ

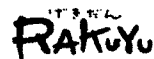
与ひょうは、ある日罨にかかって苦しんでいる一羽の鶴を助けた。後日、与ひょうの家に一人の女性が「女房にしてくれ」とたずねてきた。夫婦として暮らし始めたある日、「織っているところはのぞかないで欲しい」と約束して、素敵な織物を作った。つうが織った布は「鶴の千羽織」とよばれ、知り合いの運ずを介して、高値で売られ、与ひょうにもお金が入ってきた。そのうわさを聞き付けた惣どが運ずと共に与ひよ

### ——出演——

双子六兵衛：稲田徹也  
かね：妹背佳代子  
仁藤昂軒：柳本文弥  
およう：原麻美

### ——スタッフ——

演出 松本こうじ  
音楽 山下真史  
スライド 田伏徹志  
音響 山本正一  
記録 鎌田隆夫  
妹背修治  
制作 江川好美  
協力 (株)ハートス



うをけしかけ、女房に何枚も布を織らせることになった。織っているところを見ないという約束を破り、惣どと運ず、さらに与ひょうは織っている姿を見てしまう。そこにいたのは、自分の羽を抜いて、生地に織り込んでいる鶴の姿・・・



### ——出演——

つう：木本真希  
与ひょう：神内義博  
惣ど：楠光司  
運ず：串本祐幸  
子ども：原啓太  
：林ひまり  
：木本奈緒  
：木本奈津  
：田伏奏斗  
：田伏陽菜理

### \*\*劇団員募集\*\*

一緒に芝居作りをする仲間を募集。ボランティアスタッフも参加募集します。見学大歓迎！

(毎週日曜日夜間 7:30  
キンセイ2F)

★原則9才～70才前後  
男女不問

★参加費(年会費)必要

おとな 6000円

子ども 3000円

申し込み:090・9993・

8719(松本)

### ～劇団の歩み～

1998年10月劇団結成  
1999年6月旗揚げ「桃次郎の冒険」御坊公演  
2000年1月第1回「桃次郎の冒険」龍神公演  
2001年5月第2回ミュージカル笛吹カナシー  
2002年6月第3回「のらねこハイジ」「夕鶴」  
2003年6月第4回ミュージカル「モモ」  
2005年6月第5回実験劇場「グリックの冒険」  
2006年8月第6回ミュージカル「道成寺」  
2007年3月「道成寺」県文公演  
2009年8月第7回「ヘレン・ケラー」  
2010年11月第8回「悲劇の皇子アリマ」  
2011年1月「悲劇の皇子」県文公演  
2012年3月第9回民話劇「夕鶴」  
2013年6月第10回「奇跡の人」  
2014年3月交流公演「忘れない」(和歌山)  
2014年8月第11回「夕陽の声」  
「煙が目に染みる」  
2015年2月交流公演「忘れない」(御坊)  
2015年6月親子劇場「グリックの冒険」  
2015年2月交流公演「忘れない」(海南)  
2016年8月第12回ミュージカル MOMO  
2018年8月13回ブンナよ、木からおりてこい  
2021年11月第36回国民文化祭参加  
特別公演「病は気から」  
2023年6月第14回朗読新世界  
演目：朗読「ひとごろし」  
朗読劇「夕鶴」

地元の御坊日高で育った劇団 RAKUYU をよろしくお願い致します。  
入場券窓口：御坊市民文化会館・劇団代表 090—9993—8719